

第2回瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 意見一覧（アンケートについて）

番号	項目	意見内容	対応																											
1	学生アンケートについて	設問14で、「できれば他市町村に移転したい。」が20.7%、「すぐにでも他市町村へ移転したい。」が11.2%と高いことに衝撃を受けた。これをどのように考えるか。	若い方は、都会への憧れが強いのだろうと思う。市としては、進学等により一旦は外へ出られても、地元へ帰ってきてもらえるような施策を講じたいと考える。 また、瑞浪市に住み続けたいと思うかについて、「わからない。」という学生が多いことから、こういう学生たちに瑞浪市に住み続けてもらうことが大切だと思う。																											
2	学生アンケートについて	設問3では、市外から通う学生が約500名ということだが、都市部から通う学生について、どこから通っているか把握しているか。	東濃5市以外から通う学生について、どこの市町村から通学しているかは把握していない。																											
3	市民アンケートについて	市民アンケートの回答は、60代、70代以上が全体の57%と高齢者の回答率が高く、年金世代が多いという結果になっているが、無作為抽出では、年齢構成は考慮されたか。	2,000人を無作為抽出しているため、年代は考慮していない。アンケート依頼時の年代構成比率は、人口の構成比率と同様。次回の審議会で、アンケートを依頼した人数を年代ごとにお示しする。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>抽出数(率)</th> <th>回答数(率)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20代</td> <td>: 151(7.6%)</td> <td>43(28.5%)</td> </tr> <tr> <td>30代</td> <td>: 244(12.2%)</td> <td>88(36.1%)</td> </tr> <tr> <td>40代</td> <td>: 351(17.6%)</td> <td>89(25.4%)</td> </tr> <tr> <td>50代</td> <td>: 284(14.2%)</td> <td>129(45.4%)</td> </tr> <tr> <td>60代</td> <td>: 375(18.7%)</td> <td>202(53.9%)</td> </tr> <tr> <td>70代以上</td> <td>: 595(29.7%)</td> <td>266(44.7%)</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>:</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>: 2,000(100%)</td> <td>820</td> </tr> </tbody> </table>		抽出数(率)	回答数(率)	20代	: 151(7.6%)	43(28.5%)	30代	: 244(12.2%)	88(36.1%)	40代	: 351(17.6%)	89(25.4%)	50代	: 284(14.2%)	129(45.4%)	60代	: 375(18.7%)	202(53.9%)	70代以上	: 595(29.7%)	266(44.7%)	無回答	:	3	合計	: 2,000(100%)	820
	抽出数(率)	回答数(率)																												
20代	: 151(7.6%)	43(28.5%)																												
30代	: 244(12.2%)	88(36.1%)																												
40代	: 351(17.6%)	89(25.4%)																												
50代	: 284(14.2%)	129(45.4%)																												
60代	: 375(18.7%)	202(53.9%)																												
70代以上	: 595(29.7%)	266(44.7%)																												
無回答	:	3																												
合計	: 2,000(100%)	820																												
4	市民アンケートについて	設問22まちの現状では、H25～H27の市民満足度を比較すると、「働きやすいまち」以外は、年々満足度が下がってきている。これは、今年度抽出数を増やしたためなのか。このあたりは、どう考えるか。	市民満足度は、新たな施策を打ち出すと一気に上がる傾向がある。今年度の結果のみで市の施策を評価することはない。アンケートは、今後も毎年とり続け、継続的な評価をしたい。「働きやすいまち」が上がってきたのは、最近企業誘致を積極的に進めていることや、商工会議所と連携したスマイル券、商品券などの施策により、市内の事業者にも効果のある施策を行っていることが要因の一つと考える。																											

第2回瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 意見一覧（人口ビジョンについて）

番号	項目	意見内容	対応
1	市の人口ビジョンについて (パターン3)	第6次瑞浪市総合計画で示した目標人口は、社人研や創成会議の推計人口よりもかなり高い目標だが、何かアイデアがあって導き出しているのか。	正直なところ、大変厳しい目標だとは思っている。アイデアがあって導き出したというより、効果的な施策を講じる中で、人口減少に歯止めをかけたいということ。 第6次瑞浪市総合計画は、平成35年までに人口4万人を維持する目標を掲げている。

第2回瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 意見一覧（総合戦略について）

番号	項目	意見内容	対応
1	移住定住の推進	<p>土地の転用について多く相談を受ける。特に田などの農地転用について、市民の皆さんはあまりご存じない。</p> <p>また、空き家を紹介しようにも、かえって空き家が残っている土地は、修繕費等により、通常の宅地より高くつくこともある。壊す必要がある場合は、所有者が壊すこととなり、土地代がタダと同然になってしまうケースがある。</p> <p>提案として、相続や様々な市民の移住定住のケースに相談に乗ってもらえる窓口業務があるとわかりやすいと思う。</p>	<p>「移住定住相談事業」というように、市民の皆さんにとって、相談に乗ってもらえる事業があることがわかるように、事業を加えることとする。</p>
2	婚活支援事業	<p>出生率を上げるためには、結婚してもらわないといけない。一時、婚活パーティーや街コンなど流行った。市内でも瑞浪カントリーさんが「ゴル・コン」(ゴルフで婚活コンパ)などを実施されていた。全国的に良い事例はたくさんあるので、よく調べていただき、中身のある婚活支援を実施していただきたい。</p>	<p>検討する。</p>
3	ポーノポーク販路拡大事業	<p>有名な雑誌、グルメ雑誌等で特集を組んでもらうなど、メディアを活用すると効果が高いと思われる。</p>	<p>ポーノポークに限らず、市の様々な施策をPRすることについて検討する。</p>
4	自治会加入促進事業	<p>市民に対して、自治会に加入するよう、効果的な施策としていただきたい。区長会に任せたとような施策にならないようお願いしたい。</p>	<p>まちづくり基本条例においても、「住民は、原則として自治会に加入するものとする。」としている。区長会任せにしないよう、市の施策として位置付ける。</p>
5	子育て支援の充実	<p>子どもが高校生になると、金銭的に一層負担が重くなる。医療費の無料化など、この世代の子育て支援策を何とかしていただきたい。</p>	<p>市としては、まずは義務教育までの子育て支援を充実させたいことから、これまで取り組んできている。しかし、ご提案のとおり、高校生世代の子育て支援策があまりないので、重要な課題であり、検討する。</p> <p>無料ではなく、何割かを助成するなど、方法はいろいろあるので、検討する。</p>

6	ママ・カフェギャラリー支援事業	多治見市には、既にあると聞いている。瑞浪市ももっと早くできていればよかったと思う。	出来るだけ早く実現できるよう取り組んでいく。															
7	学習環境の充実	中学校が統合することによって、親の負担が増えることが懸念される。基本目標2の数値目標に、「学校・家庭・地域が連携して子どもの成長と安全を支えているまちだと感じる市民の割合」というのがあるが、家庭の負担が増え、今後一層便利のいい中心市街地に人口が集中するということが懸念される。	もちろん、統合に関してメリット・デメリットはある。家庭の負担が増えることも避けられないが、その負担を軽減する努力をしたい。市は、「教育環境の充実したまち」ということをアピールしているところなので、その魅力が半減しないよう、可能な措置を検討する。地域との連携による家庭の負担の軽減も検討する。															
8	婚活支援事業	市内で、結婚適齢期の未婚の方がどのくらい見えるのか把握しているか。また、その中で、結婚を望んでおられる方がどのくらい見えるのか把握しているか。 婚活事業をより効果的に実施するために、できるだけ様々なデータにより、未婚の方の趣向に合う事業を展開することを期待する。	結婚適齢期の未婚の方の数は把握しているので、次回報告する。未婚の方の意向を把握することは困難。 事業を効果的に実施するための事業内容については、検討する。 ※平成22年国勢調査 <table border="1" data-bbox="1375 762 2013 927"> <thead> <tr> <th></th> <th>未婚男性</th> <th>未婚女性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20代</td> <td>1,541人</td> <td>1,359人</td> </tr> <tr> <td>30代</td> <td>1,059人</td> <td>573人</td> </tr> <tr> <td>40代</td> <td>512人</td> <td>265人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>3,112人</td> <td>2,197人</td> </tr> </tbody> </table>		未婚男性	未婚女性	20代	1,541人	1,359人	30代	1,059人	573人	40代	512人	265人	合計	3,112人	2,197人
	未婚男性	未婚女性																
20代	1,541人	1,359人																
30代	1,059人	573人																
40代	512人	265人																
合計	3,112人	2,197人																
9	移住定住の推進	瑞浪市は、陶芸家などにとって移住しやすい環境だと思う。陶芸家は、生計を立てられるようになるまで時間がかかるため、支援策として、相談に乗ってもらうなど、有効な施策だと思われる。移住策は、全国的にどこのまちでも取り組んでいるが、代わり映えがしないと効果がない。瑞浪市は、焼き物のまちとして魅力があり、ニーズはあると思われる。	確かに陶芸家の移住相談は多い。具体的には、大湫町では、町を上げて陶芸家などの移住を受け入れて見える。今後は、ワンストップで対応できるよう。「移住定住相談事業」として窓口業務を加えることとする。															

10	若者へのPR	アンケートの「まちづくり基本条例を知っていますか。」のように、ほとんどの若者が知らないことが多い。施策についても、折角良い事業を行っていても、知らない若者が多ければ効果が半減する。是非、重点戦略に「若者への周知」を取り入れてはどうか。今後、移動(転出等)の可能性がある若者に対して、特に若者が望んでいる施策を若者に周知するべきと考える。	ご指摘のとおりと考える。これまでのような一律の情報発信では、若者は興味を持ってくれない。どのように伝えるかは課題であり、検討する。
11	農地中間管理事業	市民農園は、現在どのようになっているのか。耕作放棄地の削減や高齢者の生きがいづくりのためにも、需要があるのであれば活用の幅を広げることができないか。	市民農園は、遊休農地の活用という観点で農業委員会を通じて募集を続けている。しかし、区画整理地内は、本来宅地として活用していただくことが望ましいと考える。周辺地域の遊休農地の活用を継続したい。
12	創業支援事業計画推進事業	創業支援を一層充実させることは、大変重要と考える。10年、20年先を見通すことは大切なことであり、金融業界としても、市役所、商工会議所と連携し、協力できることについて調整している。今後も引き続き、どのような協力ができるか検討したい。また、創業支援には、第2創業も含まれると思うが、今、課題と言えるのは、事業承継であると考え。難しい問題であるが、後継者育成に悩む企業は多い。金融業界としても協力できることがあれば協力したい。	確かに、後継者不足に悩む経営者の声も聞かれる。現在は、新規創業、第2創業の支援を考えている。ご指摘のとおり、将来的には考えなければならぬ。検討課題とする。
13	婚活支援事業	私の周りでも未婚、独身の方がいるが、婚活支援事業のことを知らない方が多い。効果的に情報を求める方に情報提供ができる方法を考えたい。本人ではなく、親同士が婚活パーティーなどに参加する企画もある。有効な婚活事業を期待する。	これに限らず事業のPR不足は否めない。効果的な方法を検討する。